



**Q**：大腸内視鏡検査を受けたら、大腸ポリープがあるので取った方が良いと言われましたが、どうなのでしょうか。

**A**：大腸ポリープとは、大腸粘膜から内腔に、イボ状に隆起した病変の総称です。いろいろな種類があり、大きく腫瘍性と、非腫瘍性に分けられます。治療が必要なのは腫瘍性ですが、これにも良性と悪性があります。

良性の腫瘍は、腺腫（せんしゅ）と呼ばれ、S状結腸や直腸にできることが多いのですが、大腸ポリープの約80%はこの腺腫です。腺腫は、がんと同様に粘膜上皮細胞が異常をきたして増殖したもので

あり、腺腫の一部からがんが発生すると考えられています。腺腫の直径が1センチを超えると、腺腫の一部ががん化している可能性が急激に高くなると言われ、一般的に5ミリ以上の腺腫は内視鏡的切除の適応とされています。また平坦型で陥凹のあるものや、形がいびつなど、特殊な形態のもの、5ミリ未満でも切除しま



す。自覚症状はほとんどないため、ポリープの段階で発見されるのは、ある意味で幸運かもしれません。がんが含まれていても、早期のがんである可能性が高いからです。

（岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、ニシコー北口駅前ビル2F）

☎0555・2888・1801